

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

眼瞼下垂症診療ガイドライン

日本形成外科学会・日本創傷外科学会・日本頭蓋顎顔面外科学会・眼瞼下垂症診療ガイドライン
作成部門(統括責任者 小山明彦 福島県立医科大学形成外科)
金原出版、2021年8月10日 第1刷発行

Strength of Evidence

- A(強い根拠): 効果の推定値に強く確信がある
- B(中程度の根拠): 効果の推定値に中程度の確信がある
- C(弱い根拠): 効果の推定値に対する確信は限定的である
- D(とても弱い根拠): 効果の推定値がほとんど確信できない

Strength of Recommendation

- 1: 強く推奨する
- 2: 弱く推奨する(提案する)
- なし: 推奨の強さを決められない

■1 抑肝散

疾患:

眼瞼痙攣

CPG 中の Strength of Evidence:

C(弱い根拠): 効果の推定値に対する確信は限定的である

CPG 中の Strength of Recommendation:

2: 弱く推奨する(提案する)

引用など:

- 1) 鬼怒川雄久, 杉田裕子, 佐藤公光子. 眼瞼痙攣に対して著効を奏したん抑肝散顆粒の使用経験. *臨眼* 2002; 56: 183-90.

2)吉田篤, 竹田真. 漢方内服による眼瞼痙攣(チック)の治療例. *日本の眼科* 1993; 64: 1159-61.

有効性に関する記載ないしその要約:

『CQ19: 眼瞼痙攣に内服治療は有効か?』に対して、下記の記載がある。

『抑肝散が有効とする文献を散見するが、症例集積研究のみである』